

新花巻図書館整備特別委員会会議記録

- 1 日 時 令和2年11月12日(木)
午後1時36分 開議
午後3時22分 散会
- 2 場 所 市議会委員会室
- 3 出席委員
- | | | |
|------|--------|--------|
| 委員長 | 伊藤盛幸君 | |
| 副委員長 | 佐藤峰樹君 | |
| 委員 | 菅原ゆかり君 | 久保田彰孝君 |
| | 照井省三君 | 羽山るみ子君 |
| | 横田忍君 | 佐藤現君 |
| | 藤井幸介君 | 照井明子君 |
| | 若柳良明君 | 佐藤明君 |
| | 盛岡耕市君 | 高橋修君 |
| | 瀬川義光君 | 内館桂君 |
| | 大原健君 | 櫻井肇君 |
| | 阿部一男君 | 本館憲一君 |
| | 近村晴男君 | 藤原伸君 |
| | 伊藤源康君 | 藤原晶幸君 |
- 4 欠席委員 委員 鎌田幸也君
- 5 地方自治法第105条の規定による出席者 議長 小原雅道君
- 6 事務局職員
- | | |
|--------|-------|
| 事務局長 | 藤原睦 |
| 議事課長 | 久保田謙一 |
| 議事調査係長 | 高橋俊文 |
| 主査 | 伊藤友美 |
- 7 説明員
- | | |
|----------------------------|--------|
| 市長 | 上田東一君 |
| 生涯学習部長 | 市川清志君 |
| 建設部長 | 遠藤雅司君 |
| 建設部次長兼
新花巻図書館
周辺整備室長 | 佐々木賢二君 |
| 生涯学習課長 | 佐々木正晴君 |

8 その他 ー

9 会議に付した事件 別紙のとおり

10 議事の経過概要 別紙のとおり

新花巻図書館整備特別委員会 委員長 伊藤 盛幸

新花巻図書館整備特別委員会

日 時 令和2年11月12日(木)
午後1時30分
場 所 市議会委員会室

1 事 件

整理 番号	事 件 名
1	新花巻図書館の整備に関するについて

2 その他

(開議 午後1時36分)

◎委員長(伊藤盛幸君) それでは、ただいまから、新花巻図書館整備特別委員会を開会いたします。新花巻図書館の整備に関することについてを議題といたします。本日は、当局から、上田市長、市川生涯学習部長、遠藤建設部長、佐々木建設部次長、佐々木生涯学習課長に御出席をいただいております。本日の進め方は、最初に、上田市長から御挨拶をいただき、その後に委員の皆様から質問や意見をちょうだいしてまいりたいと存じます。そのあと休憩を挟みまして、特別委員会の今後のことについて御協議を申し上げたいと思います。それでは、上田市長お願いいたします。

上田市長。

◎市長(上田東一君) 本日は、特別委員会を開催いただきまして誠にありがとうございます。また、私がこのように出席させていただいて、お話をする機会を与えていただいたことについては、大変感謝申し上げたいと思います。前にお話し申し上げましたけれども、これについてですね、やはり議員の方々和我々とざっくばらんにお話しして、今後のあるべき姿についてお話しするというのは必要だというお話をさせていただきました。これ各会派の方々にお願い申し上げた次第でございますけれども、そのようなざっくばらんな会という形は、今のところ出来てないわけでございますけれども、それにしても、実際にお話しすることは大変重要だと思っています。これがおしまいになることではなくて、今後についても必要に応じて話し合っていく機会を設けさせていただくということについては、我々からもお願い申し上げたいと思っております。

6日に市川部長が小委員会に出席させていただきまして、ワークショップの動きについて御報告をさせていただきました。小委員会のメンバーの方以外はですね、市川部長からの話は聞かれてないわけでございますけれども、ちょっと遅れましたけれども、この小委員会において市川部長がお話し申し上げたことについては、ホームページに掲載させていただきました。我々としては、そのような市が説明申し上げたことを、議員の皆様と市民の方々に見ていただいて、今後のいろんな意見交換について参考にさせていただきたい。それをベースにしてですね、それぞれの方々の意見や御質問をいただきたいと考えている次第であります。今回は、市川部長の説明は繰り返さないで、直ちに質疑応答に入るといように理解しておりますけれども、そのような形で、意義のある話をさせていただきたいと思う次第であります。よろしく願いいたします。

◎委員長(伊藤盛幸君) ありがとうございます。それでは、質疑、意見交換に入らせていただきます。どなたか御発言の方ございませんでしょうか。

阿部一男委員。

◎阿部一男君 私のほうから3点ほど、質問なり意見なり言わせていただきたいと思えます。まずもって、特別委員会の小委員会の皆さん、この間、設置して以来ですね、何度も何度も会議を持ってきましたけれども、本当に御苦労さまだと感謝申し上げたいと思えます。

それでまず第1点ですが、花巻駅前の場合、今2か所考えられているわけですが、これは建設手法として、1月29日に市長が市民に提案をいたしました、この計画、いわゆるまちづくり会社とか、特定目的会社SPCですね、これを前提として建設をするということが考えられているのか。また、複合施設の計画は二つあるわけですが、いわゆる有

料駐車場になっているところにも連動するものかどうか、その点についてお聞きします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） 先ほどお話のありました賃貸住宅等を含めます複合施設、SPC等を用いてというような手法につきましては、以前もお話ししておりましたが、図書館ワークショップでのアンケート等を見ますと、住宅の複合化について賛成するという意見はなかったところでありまして、それらも踏まえましてですね、見直しについても検討する必要があるというふうに考えているところでございます。また、もう1か所というのは、駐車場の場所ということでしょうか。駐車場の場所に複合化というのはないのですが、図書館を造るというような候補地として考えた場合はですね、お示しはいたしました。現在駐車場として60台駐車できるスペースがあるのですが、そこに建てた場合に、その駐車場が使えなくなるということがありますので、そこは市民の皆様方の同意を得なければいけないと思いますし、仮に1階を駐車場にして、2階、3階を図書館にするような形ですと、全体として4階建てくらいじゃないと出来ないというふうに考えておるのですけれども、駐車台数は30台くらいしか出来ないだろうというのは、この間の御説明した資料の中に記しているところでございますので、そのようなことと考えております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） 今、市川部長が申し上げたとおりであります。賃貸住宅につきましては、1月29日の段階でも、絶対というようなことではなくて、本当にその部分については必要なればやめるという話はしていたところでありまして。その後かもしれません、議員の方にはそういう話をしています。これについては、前から話し申し上げましたけれども、花巻市のいわゆる中心市街地、駅の東側ですね、これについてはなかなか地価が高いということもあるのだと思いますけれども、新たな住宅を建設するという民間の動きはない。その中で花巻市が造った被災者公営住宅、これ一戸ですね、子育て世帯に、この前条例改正させていただいて、募集かけました。やはり反応は非常にいいのです。あるいは子育て支援住宅についても希望者が殺到したということでありまして、東口については人口が少ないという状況が続いていますけれども、やり方によっては人が住むということがあるので、そのことを考えて、この駅前の非常に希少な土地について有効活用ということでも考えたわけがあります。しかし、これについては、我々としてもこだわるものではないということはずっと言い続けたわけでありまして、今回のワークショップにおいてアンケートとりましたけれども、これ公表しています。住宅が良いという意見はなかったわけでありまして、これは多分、市全体ですね、市民全体の声の大多数だろうというふうに我々判断しますから、これについてはこれ以上進めるつもりはございません。そういたしますと、その部分について、複合化といっても相当限定的なものになるということになります。我々、議会でもここ数年言い続けていますけれども、青森市のアウガの話をしてですね、今どき駅前にショッピングセンターを造って、お客さんをお呼んでくるという構想はうまくいかない。花巻市においても同じように考えていて、そのようなことをするつもりはありませんという話を何度か話しています。その気持ちは変わっていないわけでありまして、造ってそれが損して、市がやらないにしても、その事業がうまくいかないということの危険性ありますから、余り無理はしたくないということでありまして、そういう意味では、複合化といっても相当限定

的なものになるだろうと。例えば、今回のワークショップでもカフェ、あるいは飲食できるスペースが欲しいという声が非常に特に若い方の中から多いわけでありまして、そういうものについては我々やっていきたいと思っていますけれども、それ以外のものについてこだわるものではないということですから、これ以上検討するつもりはないということでありまして。あと駐車場につきまして今部長が申し上げたとおりです。花巻の駅前については、市民の声としまして、駅前駐車場が今でも少ないという声、大変多いのですね。その中で駐車場を潰すというのは、私は逆行するだろうと思います。仮にほかのところに大きな立体駐車場造っても、立体駐車場、1階を例えば高齢者とか障がい者とか子育て世帯の方々に優先的なものに造れば、別に余りその不便ではない、むしろ雪が入らなくていいのだということありますけれども、2階とか3階とか4階も使わなくてはいけないということになると、不便になるという声がやはりあります。そういうことからすると、駅前において、あるいはその建設費もかかるわけです。そういうことからすると、駅前において今ある駐車場を潰すということは我々としては望ましくないと思っております、しかしながら、その部分についてはですね、一応、案としてお出ししたわけでありまして、この部分について、市民の声聞いていまして、余りそこを駐車場潰してという声がないように私も感じておりますけれども、我々としては余り望ましくないというように思っている次第であります。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 阿部一男委員。

◎阿部一男君 私、この図書館の問題で、地域の4か所ばかりで議会報告会を行いながら、できるだけ地域の皆さん、住民の皆さんから意見を聞こうかなということに取り組んできました。その中で、やはり今質問しましたこともたくさん聞かれましたので、これからますますこの図書館問題、本格的に住民の方々にも考えてもらうということになりますから、その辺のところをイメージしながらお聞きしているところです。そうすると、この建設手法ですが、公民連携の部分は、公だけでいわゆるオーソドックスな形の建設部中心に、教育部中心にしたものになるのか、民間のオガール含めて、その辺のところはどう考えておりますか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） オガールさんをお願いする理由、これは前にお話し申し上げましたけれども、我々では出来ないということなのですね。要するに、例えば賃貸住宅造ることについても、賃貸住宅どういうものを造るかとか、それについてお金どうするかとかいうことは、市はなかなか出来ないということなのです。ですから、そのノウハウをいただきたいという話をしたわけです。お金、例えば、例え話して申し訳ないですけど、プロジェクトファイナンスという言い方しましたけど、プロジェクトファイナンスだってなかなか市民の方には伝わらないわけです。ノンリコースローンなんて言い方ありますがそれも伝わりません。もう少し簡単な言い方をすると、お金持ちの息子が事業を始める。そのときは銀行からお金借りなくてはいけないということなのですね。そのときに、銀行は、今までは土地を担保で取るとか、あるいはお金持ちのお父さんから保証を取るとかということでお金貸したわけです。我々考えていたのは、そうじゃなくて、土地の値段なんてたいしたことない。担保になりません。数億円借金することについて1億円くらいの土地であれば担保にならない。あとお父さんである市は保証したくないということ。そうすると銀行はどう見るかということ、その事業がもうかる事業かどうかということ、あるいはお父さん保証したくないかもしれない

けど、最初にどれだけお金出すかを見るわけですね。我々考えたのはそういうことなのですよ。そうすると、市が最初にお金出さなくてはいけないだろう。だけど市だけじゃ嫌だな。政府系の機構からお金出してもらおうという、そういう話もあったな。どれだけ出すと言ったらいいか、そしてどれだけ出したら銀行はお金貸してくれるか、事業がどれだけもうかるかということについて銀行はどういうふうに見るか。そういう交渉は、これは我々では出来ない。私も企業にいましたけど、そういう経験はない。そういう部分について、やはり知っている人に助言いただかないと出来ませんよということだったのですね。先ほど申し上げました。そういう賃貸住宅を造ることは考えてないということですね。そういうことからすると、その部分について、そういうことの実験のある方の助言は必要なくなります。したがって、我々はオガールの岡崎さんにそういう部分について助言を求めるということについて、今考えはありません。岡崎さんには大変迷惑かけた。議会の中で、岡崎さんに対する個人的な攻撃もあったように聞いていますけれども、議会か市民か知りませんが、そういうことも含めてですね、岡崎さんに大変迷惑かけたということについては陳謝申し上げたと。我々としては、今現在はそういう形でSPC設立云々ということは考えていませんということはお話し申し上げたということでありませう。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 阿部一男委員。

◎阿部一男君 2点目ですが、まなび学園周辺に設置する場合、今三つないし四つ、4か所候補としてあるわけですが、その場合、道路の工事の関係ですね、いろいろセットなのか、いわゆる図書館と同じようにセットにして考えるべきなのか。それとも、それはそれとして、市の判断として後で工事をするというふうに考えているのか、どちらなのか。市の考えをお聞きしたいと思います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） これまで御説明してきたのは、まなび学園、あるいは営林署跡地、総合花巻病院跡地の場所ですと、幸橋といいますか、西側に、その南側の道路、城内大通り1丁目線、これの西側に歩道がない地区、道路がありまして、これはやはり大変だということを申し上げておりました。都市計画道路として、城内大通り線というのが計画ではありましたが、これを造るのはやはり橋梁とか交差点の関係で、かなり困難だというふうに考えているという中で、今の城内大通り1丁目線の幸橋を通過している道路に歩道をつけるような工事をして対応できればいいというふうに考えていまして、全く別というわけではなくて、やはり図書館を造るに当たって、周りの環境というのを、そこまでのアクセスというのも当然考慮してやらなければいけないという観点から、一緒に説明してきたものというふうに考えています。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） まなび学園ですね、候補地になっています。何か所かありますけれども、この場所に造る場合に、やはり利用者の安全を確保できるかどうか大きな問題だと思うのです。我々として考えたときに、あそこ歩道なくて本当に大丈夫なのかなと物すごい心配です。これについては、小委員会でも何度かその話をしましたけれども、小委員会のほうではですね、これは図書館と関係ないんだということで、その議論余りしないでくださいという話があって、余り御説明出来なかったのですね。だけどさっき申し上げたように、私は

非常に市民の安全を守るというためには大事な観点だと思います。したがって、10月15日だったですかね、市のほうで議員説明会をさせていただきました。そのときに話したのは、候補地について詳しい説明させていただいたのと、それから道路の話なのです。候補地についても、実は市のほうでは非常に詳しい資料作ったのです。これ6月くらいだったですかね。そのときも、時間がないから余り説明しないでくれということで、9か10用意したうちの代表的なものしか説明出来なかったわけです。我々としてみた場合に、やはり議会小委員会とかですね、特別委員会だと時間の制限もあるので、十分説明出来ないなど感じたわけですね。そういうことで我々は、議員の皆様にごくばらんに、10時間かけてもいいし、何日かかけてもいいから、お互いに話し合おうと提案させていただいたわけですね。けどこれは、議員の中でもいろんな御意見あったというふうに伺っていますけれども、そういうごくばらんな会というのはなかなか開けない状況になって、今に至ったわけです。そういう中で、我々としては、やはり特別委員会あるいは小委員会の中であれば、我々が非常に重要と考える部分について十分説明出来ない可能性があるということを考えて、議員説明会を開催させていただいて、この新しい候補地について、さらに出たもの、病院の解体の状況も出てきていますから、そういうものを十分説明させていただいて、プラスやはり道路というのは、市民の安全を守るために大事だという説明をさせていただいたということになります。これについては結果的に良かったなと我々思っています。やはりワークショップでもそういう議論出ていますよね。大事なポイントだと思うのです。我々が今考えている道路なのですけれども、実はさつき部長が申し上げたように都市計画道路は昔からあったのです。それは実現化しなかったのですけれども、実は遠藤部長の前の部長、国土交通省の専門家で、やはり遠藤部長と同じくらい優秀な道路の専門家です。この人が平成29年に赴任して、平成30年にかけて、物すごい一生懸命検討したのです。その結果、都市計画道路を造ると、何か斜面がすごくついて、角度がついて、雪がついたとき危ないとか、あの道路の北側の方々が何か変な動き方しないと駅前通りに出られないとかですね、そういう形にならざるを得ないという報告を出してきたのです。だから、今現在我々としては、都市計画道路は出来ないというふうに考えている。そうするとどうなるかということなのですけれども、まず都市計画の変更をしなくてははいけません。これは専門家に言わせると2年くらいかかる。しかも、周辺の方々が賛成すればいいのですけれども、反対する方がいると、なかなかこれはその実現に時間がかかる、あるいは出来なくなる可能性があるということもあります。そして、これも前に議会に申し上げたと思いますけれども、あの道路のもっと花巻小学校寄りの道路の拡幅については、地権者の方々の反対の声が多いのです。したがって、数年以内にその方々の同意を得て、そこまで含めて広げて、しっかりした歩道を造って車道を造って行くというのは多分無理だ。そうすると、我々としては、さはさりながら、駅前に図書館造れない場合には、やはりまなび学園周辺考えざるを得ないからどうするかということなのですけれども、今の考え方としては、今の幸橋は使いながら歩道を造ろうということを考えざるを得ないというふうに我々思っていますけれども、ただ、これについては、専門家の遠藤部長とか建設部の意見聞くと、普通考えて8年くらいかかりますということなのです。そうすると図書館が出来た段階では、しっかりした歩道が実は出来ていないのですよということなのです。そこも含めて、やはり市民の皆さんにこの情報やりながら、その結

果がどうなるか、だからそれが有利とか不利とかそういう話じゃないのですよね。事実は事実として伝えた上で、市民の方に判断していただかなくてははいけない。雪がないときに自転車で歩道のないところを通って行くようなこと、これは現実的には我々としてはやりたくないですけども、それも含めてやった上で、しばらく我慢、数年間になるかもしれないですけど、我慢しながら歩道ない状況で図書館造らざるを得ないということについて、それでもそのほうがいいということであれば、そういうことも考えなくてははいけないというのが我々の考えであります。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。本館憲一委員。

◎本館憲一君 ただいま賃貸住宅の複合化は考えてないと。それからもう一つ、SPC特定目的会社設立、それも考えてなくて、公民連携はなくなったんじゃないかなというふうに思いました。建設場所ですけども、そうしますと、賃貸住宅はなぜ建設予定地のスポーツ用品店のところに建てるという構想だったのかという、その一つの理由として、駅前の活性化に資するからということでありました。ということは、駅前に建てなくてもよくなったんじゃないかというふうにも推察するわけですけども、そこら辺、建設場所はどうか考えているかちょっとお話しいただきませんか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） 我々として考えたときにですね、やはりこれ市民の意見聴くと言っています。したがって、我々のほうとして、絶対駅前にこだわるわけではないわけです。しかし、これ正直言いまして、聞く人によってやはり違うのですね、回答については。今の図書館の問題点何なのかということなのです。図書館自体が非常に規模が小さい。魅力的じゃないということが大きな理由の一つですけども、もう一つはやはり行きにくいということなのです。そうすると、利用者の方は、実は60代、70代の方が圧倒的多いのですね。あとは、アンケートの結果ですから、アンケートに答えない場合には結果出ませんけれども、あとお子さん連れのお母さん方が来ている方が多い。ほとんどは自家用車で来ている。あるいは中高生であれば、その近所に住む人が来ているという状況なのです。私も66歳ですから、さっきの60代、70代の中に入ります。だけど図書館というのは、60代、70代の方にとって非常に重要なのですけれども、やはりそれだけじゃないだろうと思うのですね。やはり若い人たちに使ってもらいたいという、そういう図書館を造る必要があるんじゃないか。高校生で発言ありました。私も直接聞いていますけれども、花巻魅力ないって言うのですよね。そういう中で、そういう図書館に行って、いろんな活動をしたいと、本読んだり交流したいと、そこでも勉強したいという、そういうことがあります。年齢の上の方によっては、私直接聞いていますけれども、高校生というのは3年間だけだ、自分たちは十何年使った、だから自分たちのほうを大事にすべきだと、実際私の目の前でおっしゃった方がいます。でも、それそうではないと思うのですね。中高生大事だと思う。そういう人たちが、花巻はやはり過ごしやすいなと思って、一旦出るかもしれないけど、やはり花巻に戻ってきたいという魅力の一つを造る必要がある。そういう点からいったら、やはりそういう人たちが来やすい場所に図書館というのは、私は必要なのではないかなというふうに思っています。アンケートのとり方によって結論違いますから、全てじゃありません。聞き方によって全然違うのですね。例えば、皆さんのように駅前とまなび学園という聞き方するとそれだけ出て

きますし、もう少しまなび学園だとかいうところで、こういう構想になりますよと説明すると、また答えが違ってくる可能性があるということだったのです。ですから、我々としては、そういう意味でいろんな層の意見聞いて、花巻に必要な図書館というのを考えていく必要があるだろうと思っています。そういう意味で、いろんな人が集まりやすいということを考えて、車のない人を考えて、やはり駅前考えたほうがいいんじゃないか。実際に今回のワークショップでも、公表していませんけれども、駅前希望した人は若い人が多いです。まなび学園を希望した方は、やはり70代くらいの方が多いのですね。おかしいじゃないかっていうのは簡単ですけども、実際にそういう声が出ていることも事実なんですね。そういう観点から考えると、私は各層の、しかも自動車のない、自分が自動車あるから要らないじゃなくて、自動車を使えない人についてもどこが行きやすいのかということ、やはり我々としては考えてく必要があると思っています。そういう意味で、その部分は、駅前において図書館ということ考えた場合、やはりまだ我々としては進めたいなという気持ちは正直あります。さっき申し上げましたけれども、これは若い層と、我々のような高齢者の方の意見を多数決でとって決める話じゃありませんから、十分話していく必要があるというふうに我々は考えております。できるだけコンセンサスをとって、そこで場所を決めていきたいというのは我々の考えであります。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 本館憲一委員。

◎本館憲一君 ただいまの市長のお話は、駅前のほうがいいんじゃないかと、進めたい気持ちがあるというお話でした。今の駐車場にしろ、タケダスポーツ店のところにしろ、駐車場は市有地だからいいのですけれども、タケダスポーツ店の場所はJR用地ということになりまして、もしJR用地でありますと、ただいまの想定している借地権を設けるか、それとも購入するか、JRから購入していただくかと。JRは何とか貸す方向でと言っていますけれども、それについてどういう考えをお持ちですか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） それについてはですね、我々は当初、買いたかったのですよ。別に買うのと借りるのと比較して、借りるほうに決めたということと言ったわけじゃないのですね。買うほうが我々としてはいいと思っていました。だから、買うほうがいいんじゃないかというのは、これは我々も同じです。議員の方々も言っていることと同じなのです。だから買いたいのですよ。ただ、これ相手のあることですから、我々買いたかったって売ってくれなきゃ、これどうしようもないわけですね。そこで比較するのは、だから買うのがいいのか、借りるのがいいのかじゃないと思うのです。要するに、借りてまでここに造ったほうがいいのか、借りるくらいだったらまなび学園のほうがいいのか、そういう話だと思う。我々としては、借りることについて数字がひとり歩きしていますけれども、あの数字は向こうがちょっと言った話で、向こうもそれにこだわっているわけじゃないのですね。あくまで評価額をベースにして、あとはJRの社内規則があるらしいです。一定の利益率を掛けていて、そこで計算した金額にしたいという話なのです。だから、あの金額に最初からなると決まっている話ではなくて、これは交渉の余地があるということは、これも何度も何度も申し上げている。これ不思議なんですけど、議員の方々信じないのですよね。市のほうで説明したけど、そうじゃなくてももう決まっているに違いないと。正直申しますけど、特別委員

会も小委員会も議事録公表されていません。我々途中で申し出ましたよね、公表したほうがいいと。しているのです。だけど、されてないのですけれども、だから我々市の職員が傍聴した報告受けていますから、どこまで正確に皆さんの発言を聞いているか分かりませんが、どうも市のほうで言ったこと、そう言ったけど、実は違うことを考えているんじゃないかというふうなことがあるということなのですから、我々言っていることについては、実は我々裏表ないというふうに我々思っています。思っていること、それだけ言っているのです。仮に金額出ましたけど、それはまだまだ交渉の余地があるということなのです。交渉の余地があるので、例えば、そうすると我々は評価額をベースにして交渉するのだから、JRに対して評価額をとってくださいと言っているのですが、とってくれなかったのです。なかなか。花巻市が実際借りるかどうかわからない部分について、そういうこと出来ませんというのは、これは申し上げています。議員の皆さんに申し上げていますけれども、それはJRの立場で言ってきてないのです。だから幾らくらいで借りられるかは分かりません。もう一つありますのは、貸した場合に、固定資産税を市がとれるのですよね。これはですね、100万円まではいきません。金額言えないのです。100万円まではいきませんが、50万円よりは多い金額が固定資産税で入ります。したがって、賃料の部分が全て市の負担になるわけではないということがあります。ただ、さはさりながら、賃料は持ち出しだからいいじゃないか。そのとおりだと思います。だけどこれについても、定期賃貸借、50年たったら返さなくちゃいけないんじゃないか、いろいろあります。これも条件交渉なのです。この条件交渉をまだしてない状況であります。しかしながら、やはり借りるより買ったほうがいい、そのとおりなのです。我々としてはそう思っていますけれども、そこが話は出来ていない。その上で話になりますけど、仮に500万円、600万円の賃料払ったとして、年間ですね、この図書館というのは、今の花巻市の図書館7,500万円くらいですかね、花巻図書館の使っているお金。これざくっとした金額しかありません。URは確か1億2,500万円くらいですか、1億1,000万円くらいですか。早川先生と相談して、今、生涯学習部でざくっと言っているのは、書籍の購入費とか、あるいは図書館司書を充実させるとかいうことを考えていくと、年間1億5,000万円くらいかかるんじゃないかという話なのです。いい図書館を造ることについて、仮に500万円、600万円賃料が余計にかかって、それって大きな話なのかなということなのです。それも皆さんに考えてほしいということなのです。大変残念ながら賃料の金額は今申し上げられませんが、1億5,000万円払って、必ずしも皆さん使い勝手のよくないところに図書館造るのがいいのか。1億5,600万円と言いましょ。1億5,600万円払って、もう少し使い勝手のいい図書館造ったほうがいいのか、これはみんなで考えましょということが我々の考え方です。ですから、買ったほうがいいのはいいんだけど、さはさりながら、賃料であれば絶対駄目というのは、そうかなというのは正直な話ですね。50年たったら追い出されるとなったら、追い出されないような条件の契約をして。我々言っています。JRとの賃貸の話については、さっき申し上げました。JRは花巻市と交渉しても、そこに建つのですか、建つという方向性見当たらなければ交渉出来ませんよと言っていますから、そういう交渉出来ていないです。だけど、それができるようになった場合には、その部分について交渉して、その上でそっちがいいのか、別のほうがいいのかということを考える

余地はあるのだろうと思っています。我々としては、今、JRに対して、土地を売ってくださという話をもう1回言っています。これについては、JRも協議には応じてくれるというふうな方向にはなっています。ただ、これは、JRの場合には大企業です。盛岡支社が話に乗ってくれても、本社で駄目と言われる可能性があります。今回の土地の利用についても、1年以上をかけて話してきましたけど、やはり本社になるといろんな条件がつきます。ですから簡単な話ではないのですけれども、簡単な話じゃなくて、見通しがはっきり今こうなりますということを言えないから、諦めちゃうのがいいのかどうか。それはそうじゃなくて、むしろ我々はどういう図書館が必要で、そこを考えてから、場所についてもこういう場所がいいんじゃないかということ、我々として考えるべきじゃないかなと思っています。皆さんの特別委員会、小委員会の議論の中で、市が場所について市民に説明してないんじゃないかという、大変苦勞しているよというふうな御発言があったというふうに私は報告受けています。このようなことで苦勞かけたということについては、大変申し訳ないと思っておりますけれども、ただ状況見てください。何でそうなったかなのですね。我々1月の段階で、1月ではなく3月ですかね、いつだったか、3月の段階だったかもしれません。市民参画手続、これはガイドラインに基づくのは素案が出来てから、計画の話なのですね。その前に我々としては、やはり市民の意見を聴くという、そういう観点からシンポジウムを開くとか、あるいはワークショップをやるとかということは申し上げていました。けど、このコロナ禍のもとにおいて、シンポジウムを開くような情勢じゃなかったのですね。ですから、我々は6月くらいまで何も出来ない状況にあった。そのあとに何をやったかというのですけれども、場所の問題をまず話をするのではなくて、どういう図書館がいいのか。平成29年の構想をベースにして説明しましたけれども、どういう図書館がいいのかということ、まずワークショップで話してもらったのです。その上で、最後の段階で、場所についてこういう観点ありますよという、そういう資料を渡して、もう少し前に渡せばよかったのですが、間に合わなかったのでぎりぎりになりました。事前に郵送した上で話していただきましたけれども、郵送した時期が遅くなったということについては、我々としても大変残念だと思っておりますが、その上で、ざっくばらんに場所についての議論をしていただいた。そしてアンケートをとったということになります。さっき申し上げたように、特に若い人たちについては、便利な場所という声が多かったと思っておりますけれども、この問題は、ワークショップの方だけで決めるんじゃないで、今後話していつ決める必要がある。そういう上で、我々としてはなるべく、なかなか難しいですけど、年齢層によって違いがあるというものを進めるというのは難しいのですけれども、そこをやる努力をしていきたい。それについて時間かかってもしようがないというふうに我々考えているということでもあります。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。若柳委員。

◎若柳良明君 ワークショップのことについていろいろ出ていますけれども、確かに32名集まってアンケートをとったら、JRそばが11人あるいは駐車場も3人くらいの方がいいということで、駅前周辺がいいという方が多かったようではありますが、その場合、JRの土地なり、そこに建てると言った場合、50年間借りるとか、あるいは賃料もある程度かかるとかという説明をした上でのアンケートでしょうか。それは、どのような説明だったのかお尋ねをいたします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 市川生涯学習部長。

◎生涯学習部長（市川清志君） JRの土地につきましては、1月29日の議員の皆様にお示した資料と全く同じものをお示して、50年間借りる土地ですよというのを、その場でもお話しておりますし、その前のワークショップでも、場所をですね、候補地をお話しした際にも若干は触れておりますので、その5回目のときは、きちんとその資料で50年間借りることになりますということはお話ししております。

◎委員長（伊藤盛幸君） 若柳委員。

◎若柳良明君 それでは、工事費の関係について、今想定されている部分、議会でも答弁、説明があったわけですが、再度その工事費の概要についてお尋ねします。それから、駅前の場合の国庫補助金、まなび学園のほうに来た場合の国庫補助金、これがどう違いがあるのかをお聞きしたいです。お願いします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 工事費となると、建物の建て方とか内容によって大きく変わると思うのですよね。なので、具体的にどういう内容でお聞きしたいのでしょうか。

若柳委員。

◎若柳良明君 議会でも答弁している、そういう大枠の部分でいいですし、場所が変わった場合どう変化があるのかというのに焦点を当ててお聞きしたいです。駅前の予定している部分と、それからまなび学園のほうに建てた場合の国庫補助金の違いが出てくるのかどうか、その点だけでもお尋ねをいたします。

◎委員長（伊藤盛幸君） 遠藤建設部長。

◎建設部長（遠藤雅司君） お答えいたします。結論から申し上げますと、どちらでも都市機能誘導区域の中にあります図書館ということであればですね、国庫補助金の額は、同じ価格だとすると変わりません。ただ、今まで再三御説明いたしましたけれども、駅前で例えば自由通路があって、図書館があるというようなパターンで、あそこの駅前一帯をにぎわいのために整備したいという話は、国土交通省のほうにも説明していきまして、かなり好感をいただいていることは従前から説明したとおりです。それを、例えばまなび学園のほうに離れた場合、同じように御理解をいただけるかというのはまだ話していませんので、それは分からない。ですから、場合によって、それは認められないとか、順番をつけられた場合になくなるという可能性はあり得るということです。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） 制度について議員の皆さんにも説明しましたが、今年4月に変わったのですね。3月までは、例えば自由通路を造る場合には、図書館と連携した場合でないと国の補助金は制度上出る可能性がないということだったのです。今は4月から変わりました。図書館と駅の橋上化は連携しなくても、駅の橋上化だけでも補助金出る可能性があるという制度に変わったということでもあります。ただ、要するに、これはコンパクトアンドネットワークの考え方で、中心市街地の活性化に役立つものについて国が補助金を出すという話ですから、国から見た場合、そういうふうな国の政策目的に合うほうがですね、方向が出やすいことは間違いないと思います。そういう意味で、駅前の図書館と組合せたほうがJRの橋上化についての補助金が出る可能性が強いということは事実だと思います。図書館の補助金でありますけれども、これも御説明していると思いますけれども、最大が10億5,000

0万円ですね、可能性の問題です。図書館について10億5,000万円。駅の橋上化はそういう制限ありませんから、今建設部のほうで計画している中では15億円くらい国からの補助金を得るといふことで考えているといふことであります。先ほど部長から、国土交通省には駅前の場合しか話していませんといふ話をしましたけれども、実は3週間前、2週間前だったですか、私の日程の中に入っていますけれども、都市政策何とかという市長の会があるのです。大体10人くらい出るのですけれども、そこで都市計画局長、途中でお帰りになりましたけど、あるいは都市計画課の有力な課長はほとんど全員出席して、話しています。その中で花巻市は、図書館の計画を都市機能誘導区域に計画していますと。場所については、駅前か、あるいはまなび学園か、今両方検討していますといふ話をしています。ですから、簡単な話ですけど、うなずいておられましたけれども、花巻市は意外と評価高いのですよ、町なか活性化の施策については。そういうことでうなずいておられましたから、可能性はあると私は思っています。まなび学園についてもですね。ただ、間違いなく駅のほうがすっと通るのは間違いありませんし、正直言って、我々が働きかけても、うまくいかないのだったら、多分我々が悪いんじゃないなくて、その計画自体が評価されないと。我々、信頼受けているといふふうに自負していますから、我々が悪いんじゃないなくて、その計画自体が評価されないという結果になるだろうと思います。ただ、だれどいずれにしても、まなび学園で建設すべきだといふことがコンセンサスが出来た場合には、我々としてはそれをベースにして、国土交通省に対して働きかけたいと思っていますけれども、もう一度繰り返しますが、そこでうまくいかなかったら、我々が悪いんじゃないといふことは、ちょっと申し上げたいなといふふうに思います。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかに質疑の方ございませんか。御意見でもよろしいです。

内館桂委員。

◎内館桂君 場所の関係についてお聞きいたしますけれども、今駅前、あるいはまなび学園付近といふことでございますけれども、このまなび学園の関係は狭いといふこと、あるいは総合花巻病院跡地そのものが崖地といふのですか、掘り割りになっている、そのようなことが言われておりますけれども、その道路に面して合同庁舎がございます。これがもしかしたら移転といふものを考えながら、場所の確保といふことで、生涯学園都市会館も含めて文教施設、そういうようなゾーンにしていくといふような考えのもとで、計画といふものが示される必要もあるのではないのかなといふ思いもいたします。あともう1点は、この前に走っている道路を今、実際に整備しております。確かに図書館がここに整備すると、人の出入り、往来が激しくなる、その想定は分かります。しかしながら、この拡幅そのものについては、図書館があるなしにかかわらず本来は生活道路として整備していかなければならない話。今、実際にまなび学園を利用する場合においても、徒歩で来ている方もあるかもしれませんし、ましてや花巻小学校があると、ここも通学路になっている。そういう意味合いからすれば、図書館ができることと併せて、その気持ちも分からないことではないのですが、場合によっては、それは切離してでも、例えば一方通行にしちゃうといふような話だってできるのではないかなといふふうに思うのですが、そうしたことをちょっと考えてみたのですが、いかがでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） 合同庁舎も耐震化していますよね。県が今の合同庁舎壊して、新たに造る計画があるということは私どもは寡聞にして聞いていません。実際に、もし可能性があるとするのですね、多分花巻と北上と合わせた合同庁舎ということなると思います。したがって、建て直してくださいという話をした場合に、花巻に残るというふうに考えるのは、極めてそれは楽観的過ぎるということだと思います。県の財政、私言うのも何なんですけれども、大変厳しいのですよ。花巻と余り基金変わらないですよ。岩手県の基金、少しは多いですけどね。これ、なくなるという予想になっている、数年後には。今どういう状況になっているかという、例えば花巻市もそうですね、市道を造る場合に、社会資本整備総合交付金を使って、それを国からもらって使ってやっているのですよ。岩手県の場合どうなっているかといいますと、昨日、おととい、財務省に行って私も話してきました。主計官と45分くらい話してきました、10分の予定が45分くらい、向こうも喜んでいろいろ聞いてくださったので、45分くらい話しましたけれども、岩手県は、例えば県整備の国の直轄事業は90%復興交付金なのです。県の整備しているものも80%復興交付金なのです。そうすると社会資本整備総合交付金 coming しているのは20%だけなのです。来年から復興交付金出なくなりますから、これをどうするんだというのは大きな課題なのです。これ来なくなると、3桁国道とか県道、主要地方道の整備出来なくなるのです。これが県の県土整備部長とも話していても、大変な危機感なのです。そういう状況のもとにおいて、まだ使える合同庁舎を壊して、新しいのを造るのは考えられないという状況だと思います。だから、理想を言うのはいいのですけれども、現実的にはないということだと思います。したがって、もし花巻市が、県の合同庁舎も含めてお金出して造ると言ったら乗ってくると思いますけれども、壊して一緒に造ろうとか、別のとこに造ってくださいと言っても、県としてはそれ出来ないという状況。少なくともここ数年の間に、そういう計画をつくるとは思えない。だから、図書館の建設を今計画を進めるのをやめて、10年後にもう1回考えればいいんだといったら、それはその段階で考えればいいかもしれませんが、今の段階では、それは現実的ではないというふうに我々見ていますし、それはそうでしょうということについては、市の内部では皆さん同じ意見だと思います。それから道路については、整備する必要がありますよね、確かに。我々としてはやりたいと思っています。ただ、小学校の通学路ということ考えたとき、もっと危険なのは南城小学校なのです。南城小学校は歩道ほとんどないですよ、学校の前。危ないのです。ほとんどの子供たちはそこを、ほとんどじゃない、相当程度通っていますから、危ないのです。そっちのほうがまず優先度は高いというふうに思っています。今現在は、あと山の神諏訪線の整備も進めていますし、そんな簡単にすぐできる状況ではないと思っています。それで、あともう一つ、歩道整備進めても道路はよくなるのですよ。さっき申し上げました、今お住まいの方々が買収には応じませんという話をしているのです。そうすると、あそこを安全な道にしていくことについては、5年や6年の単位ではちょっと考えられない。我々としては、歩道の整備だけでも進めたいと思っています。都市計画道路の変更することについては余りお金かかりませんから、これは我々としては来年度からでも進めたいと思っています。ただそれは、現実的に、さっきおっしゃったように図書館と別に小学校のお子さん方、あるいはまなび学園使う方々にとって安全な道路になるのは相当時間かかると。今の見通しでは、花巻市の財政の問題を横に置いて考えても、財政

をしっかりお金かけてやったにしても、あと8年ほどになるというのは我々の見方でありまして、その中で、やはりほかの道路との優先度を考えながら、我々として進めていきたい。あと、真ん中の地区の方々についてはですね、お気持ちが変わることについては、場合によっては10年、20年かかるかもしれませんが、そういう長い単位で考えていく必要があるんだろうなというふうに思っています。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかに。久保田委員。

◎久保田彰孝君 それでは、複合施設についての考え方なのですが、先ほど賃貸住宅はないということははっきりしたのですが、であれば、例えばカフェだとか飲食スペースについても必要だ、考えていますというふうな話ですが、研修室だとか、学習室だとか、展示スペースとかそういったことも含めて、複合施設といった場合、こういったことも含めることも考えているのか。そして、私が1番危惧するのは、複合施設の中に商業施設、スペースが入ることを警戒しているのですが、そういうことについてはあり得ないのか、そのことについて伺います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） それはさっきお話し申し上げましたけれども、商業施設を造っていった場合に、そこはうまくいかなかったという場合のリスクというのは、やはり私は大きく考えるべきだと思っています。URの報告書に書いていますよね。ほぼ駄目だという話ありました。その上で、JRが一時的に自分たちが運営するから造ってくれという話があったのですよ。そのときに、それを検討してくださいというのは我々の回答だったのですけれども、ただそこの中で、例えばJRが20年間賃料を払い続けると約束をすとかということがなければ、これは危なくて出来ないというのが我々の判断。実際にそういうふうな提案はしないだろうと思ったので、見ていたのですけれども、最終的には、JR本体じゃなくて子会社にやっていただくということで子会社に相談したらしいのですけれども、花巻駅の場合については魅力がないというのがその子会社の結論でありましたから、それはないということです。さっき申し上げました青森市のアウガ、青森市長と私親しいのですけれども、アウガとかの話聞きます。そういうことがあるから余りうまくいかない。URの報告書でも、大した報告じゃなかったもので、申し訳ないのですけど、何社か聞いた中では反応はよくない。そしてJRについてもどうかなと思ったけど、やはり最終的に駄目だという話だったということですから、花巻市が独自に商業施設を誘致してやってくるということは一切考えてないということでもあります。ですから、カフェについては希望ありますから、それについてはやっていきたいというふうに思っています。

ただもう一つ、さっきJRの土地を購入する可能性について我々探っていますということをお話ししました。買う場合には、JRの税制の問題とかいろんな問題あるようなのですけれども、その場合には、土地収用法に基づく土地収用手続きをしてくれということをおっしゃっているのですね。土地収用法に基づく手続の場合には、都市機能の場所ですから、そういう意味では余り商業施設を造ってはいけならしいのですね。附属程度のカフェであれば多分大丈夫じゃないかという話がありますけれども、そういう観点から、もし購入するということになると、大々的な商業施設を造るとJRから買えなくなりますから、それは出来ないと。あとワークショップでも話ありましたよね、小さいホールを造ってほしいとか、いろん

な話ありました。これはですね、さっき申し上げましたけれども、国からの補助金が仮に出るとしても、10億5,000万円が限界だって話。いろんなことを造っていった場合に、これ全て花巻市の負担になるのですね。だから、図書館だけでも多分21億円くらいかかるのではないかというのは、今の我々の事務局の説明ですから、それにプラスして造るといって、仮に同じ10億円であっても、市の負担は全然違ってくるのですよ。中期計画で市の財政計画を出しましたけれども、あれ見ていただいても、あのなかに図書館とか橋上化入っていませんよね。そういうのを入れていくと、そんなに合併特例債だって潤沢に余るわけじゃありません。したがって、その部分を簡単に、複合施設を造るといというのは結構難しい。そういう中で我々考えているのは、駅前であれば、なはんプラザを活用することをもう少し考えられるんじゃないかと思うのですね。例えば、あそこのホールをですね、これはまだこれからの話でありますから何とも言えません。余り変なこと言ってしまうてですね、また、突然言ったと言われると困るのですけれども、例えば大迫交流活性化センターとか、東和コミュニティセンターに席ありますよね、引っ張ってくると結構気持ちのいい席なのですよ。例えばああいうことも考えながら、図書館利用者がはなんプラザでいろんな活動できるようなことをすればですね、これは総合的に市の負担が少ない中で、使い勝手がいいようなことができる可能性があるんじゃないかというのを我々としては検討したいと思っています。これも含めて、今後計画出すときには、それも含めて、市民の皆さんには聞いかけしていきたいというふうに考えています。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかに質疑、意見の方ございませんか。佐藤明委員。

◎佐藤明君 小委員会のメンバーはなるべく言わないで、ほかの方に言っていただくというのでちょっと遠慮していましたが、時間も後半になりましたので、質問させていただきます。先ほど市長は、別にスポーツ用品店の場所に固執するわけではないと。ただ、あそこはいいというお考えは聞きました。しかしながら、賃貸がどうして駄目かということが、早い話、市長にとっては余り分からないということなのですから、私はこの前も言いましたが、金額の問題じゃないと。やはり市の主要施設が、市の用地になればならないと私は思っております。土を掘削するにも、何するにも地主の許可を必要とするようなことでは非常に困ると思っております。ですから、もしどうしてもスポーツ用品店の場所ということであれば、やはり土地の取得をお願いしたいと。それからもう一つですけれども、まなび学園のあそこに営林署跡地があります。あそこは当局の資料によりますと、西側に分厚い擁壁を建てないと駄目だという図面があります。しかしながら、私はあそこを掘り下げて、まなび学園のほうから見れば、地下1階、地上2階というような構造の建物にして造ってはいかがかと。地下に関しては駐車場でもよろしいでしょうし、図書館という性質上、書庫、資料を結構保管するというような意味では、書庫という考えもあると思います。それで、あそこは県に駐車場として貸しているとは思いますが、建物を壊したり、そのようなことはないの、比較的早く、計画を立てれば実現できるのではないかと考えておりますが、いかがでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） これも先ほど申し上げましたけれども、小委員会でそういう議論が出たということは報告受けています。さっきも申し上げましたけれども、これ議事録公表さ

れていませんから、どれだけ私が正確に理解しているかは分かりません。ただその中で、遠藤部長、専門家ですけど、あそこを掘った場合は、表の擁壁は要らないわけではなく、裏の擁壁を造る必要があるという話をしたというふうに伺っています。もう一つですね、私がかがかなというふうに思うのは、あの場所であっても、やはり歩道の問題出てくるのですよ。下から上ってあげればよいということですよ。例えば、ワークショップで、子供たちとか高校生ワークショップだったか、花巻北高生のだったか、声がありましたけれども、やはりあまり坂を上ったり下ったりするのは嫌だという声もあるのです。下から上ってくると、ちょっと坂上ることになります。もう一つは、あそこに造る意味は何があるのかということなのですよ。というのは、中高年の方々、我々と同じ世代の方々が、まなび学園がいいと言っているのは、駅前に比べて緑が多いということなのですね。あそこに造って周り緑ありますか。何の意味があるかということなのですよ。松の木はあります。だけど、体育館側、体育館壊さない限り、あのままですよ。そうすると緑は十分ないですよ。そこに、まなび学園がいいと言っている方の理想的な緑の多い場所を造るというのは、ちょっと難しいんじゃないかな。そうすると、単に駅前より少し不便になって、駅前は我々芝生広場を造るというふうに構想出していますよね。そこでお茶飲んだり、子供たちが遊べるようにしようということ、そこも出来ないような状況になるので、私はあまり魅力ないんじゃないかなと思っています。ただ、委員の意見は委員の意見でありますので、承ります。

◎委員長（伊藤盛幸君） 佐藤明委員。

◎佐藤明君 それでは、最後に今の市長の答弁に対して質問いたします。遠藤部長が、要するに東側とか工事する際に擁壁を建てなければならないというのは、それは工事用の擁壁であって、それは後は埋め戻せばいいはずですから、別に大がかりなコンクリートの擁壁を造る必要はないかと思っております。それから今市長おっしゃいました、緑が、そこに造ったら緑があるかっておっしゃいましたけれども、私は花巻は十分緑があるので、何も図書館の周りにいっぱい緑がなければならないかということは、私は余り問題ではないと思います。私が言いたいのは、やはり市民の皆さんも、いつできるんだということを言われております。ですから、あそこでしたら結構早くできる、西側の部分に関しては用地交渉あるかもしれませんけれども、意外と早くできるのではないかと思って質問しました。そういうことです。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） 工事がどれだけであるかどうかは、これはちょっと分かりませんが、自然、コンクリートでやるんで、自然でやるとやはり狭くなりますというのは専門家の意見であります。私は専門的な部分がないので意見だけ承ったと思っていますけれども、もう一つは、図書館にまなび学園がいいという方たちの大きな理由が、緑を確保できるということだと私は思っています。そういうことおっしゃる方が多いと。これは確かにいい意見なのですよ。今回のワークショップでも、まなび学園のいい点として、緑が多く、ただそれができるかどうかは別ですよ。反対じゃないとは思っていますけれども、病院跡地だったらできるかもしれません。そこは大きな要素だと思っています。だから、委員がそれは自分は関係ないんだというのは御意見として承りますけれども、市民の中にはそうじゃない意見の方もいらっしゃる。そういう観点から、我々は例えば駅前については、今のコ

ンクリートの広場を芝生化するとか、あるいはワークショップでありましたよね、屋上庭園化したらいんじゃないかと、これ私いい意見だと思いますけれども、そういうことも検討の余地はあるなというふうに思っています。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。高橋修委員。

◎高橋修君 今日の市長の答弁聞いていて、少し違和感を感じたのが、JRに対して土地の買取りの交渉を進め、ちょっと交渉を図っているという部分がちょっと私は違和感あったのですが、今、まなび学園という意見が一定層ある中で、買取りが決まってしまった場合は、どのように一定層に対して説明をなされるのか。これはやはり市民の皆さんが駅前がいいと言ってから、交渉を図るべきではないかと思いますが、その辺いかがでしょうか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 上田市長。

◎市長（上田東一君） そういう交渉が出来ても、市民の方々が駅前嫌だったらおしまいになります。我々は、JRと交渉することについて、こちらでそこに必ず造りますと約束するわけではありませんから。ただJRのほうもそこをやるについては、時間はかかりますから、今から様子を聞いて、JRのほうの考え方を聞いていかないと、もし仮に市民が買うのだったら駅前でもいいよ、借りるのでもいいというのだったら別ですけどね、というふうになったときに、それからまたさらに1年、2年かかってしまいますから、やっていかなくてはいけないのですね。役所に対する補助金の交渉もそうなのですよ。今日、花巻大曲線のトンネルの安全祈願祭ありました。議長さん頑張って、期成同盟会の会長として、何度も何度も東京行っています。同じなのです。何度も何度も交渉して、そこで大体少しずつ様子が分かってくるということです。企業の交渉もそうじゃないですか。民間の我々もそうだったですけどね。やはり交渉というのはそう簡単に、あした決まれば決まるものじゃない。ただそこは、少しずつ様子を見ながら、相手の反応を聞き、その上で、その条件だったらどうですかということを市民にも問い合せていかなくては、白か黒かじゃないんですよ。ですから、そういう形で交渉せざるを得ないと私は思っています。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。よろしゅうございますか。

（「なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） はい。それでは、以上で質疑、あるいは意見交換を終わりたいと思います。本日の委員会では市長に御出席いただきまして、いろいろなお話を直接お伺いすることが出来ました。本日の内容につきましては、また小委員会のほうで整理をしていきたいと思います。上田市長はじめ、当局の皆様には御多忙のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございました。ここで暫時休憩をいたします。

（休憩 午後2時50分）

（再開 午後2時59分）

◎委員長（伊藤盛幸君） 再開をいたします。

次に、本委員会の今後の進め方について、御協議をお願いしたいと存じます。11月6日に開催いたしました小委員会におきまして、本特別委員会の審査の方向性について、意見交換を行ったところであります。方向性と申しますのは、審査終了に向けてどう位置づけるかということであります。これまで、特別委員会及び小委員会では、市当局から説明をお聞きし、また、市民との意見交換会を開催し、それらをもとに議論し、協議を重ねてきたわけで

ありますので、特別委員会の審査結果として、これを整理すべき点は見えたのではないかということでもあります。このことについて、全体の委員会で討議をし、大方の了解が得られるのであれば審査を終了し、早期に審査結果としてまとめ、報告すべきではないかとの意見があったところでもあります。また一方、市当局がこれから11月下旬になりますけれども、市民説明会を開催する予定であり、その結果や、それにどのように対応していくのかなど、まだまだ説明を聞き、あるいは議論を深めていく必要があるのではないかといった意見もあったところでもあります。以上を踏まえまして、小委員会といたしましては、全体の委員会の中で討議をし、方向性を見極めることにしようとしたところでもあります。このことにつきましては、小委員会の委員を通じて各党派等であらかじめ御協議をいただければということをお願いをしたところでもありますけれども、十分な日程が確保出来ない中でのお願いでありましたこと、御迷惑をおかけしたものと存じますが、御了承をお願いしたいと思います。本日、市長からいろいろなお話を直接お聞きしたことも含めまして、先ほど申し上げました方向性について、皆様から御意見をちょうだいしたいと思います。このことについて、どなたか御発言ございませんでしょうか。

櫻井委員。

◎櫻井肇君 まず結論から申し上げます。私の考えは、12月定例会をもって最終報告をまとめ、この特別委員会を解散するという方向でいいのではないかというふうに思います。まず複合施設云々は、市から新たなことが出ましたので、場所についても両論あると思うのです、市民の中では。何をやるにしてもいろんな意見があるのは当たり前ですが、それは、議会は、これ執行機関じゃございませんので、どこにということ一つにまとめるということは出来ないのだろうと思います。多分議員が一致することはないのだろうと思います。ですから両論併記でも構わないので、まとまったところを出して、12月で閉めたほうがいいのではないかと。そしてもう一つ、12月で閉めるというよりは、市民サイドで見ますと、これ以上長引かせますと、図書館の建設のじゃまはりを議会がしているという誤解も与えかねない。決してそういうことではないのですが、そう見る人、いろんな見方ありますからということ。それから最後に、理由は、これから今月から市も4か所で説明会をやっておりますが、市民の反応は、議会が聴取した4か所での説明会、これとほとんど変わらない反応が出てくるだろうということもう十分予測出来ます。ですから、それを待っておりますと来春になってしまうということですので、そうしますと基本計画の着手も遅れてしまうということになりかねないので、私は12月で最終報告を出すべきだと。そして委員会は閉じるべきだというふうに思います。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） はい。ただいまは櫻井委員のほうから主に三つの点について、ほとんどまず結論が出ているということから、それを取りまとめて12月定例会で報告をして、その時点で本特別委員会の役割は終えるべきという御意見がございました。これにつきましてどなたか御発言ございませんでしょうか。

近村委員。

◎近村晴男君 先ほど櫻井委員は、いわゆるもう候補地だろうと、場所だろうというふうな話でしたが、ですから両論併記という話でした。そのとおりの一本化しようというのは非常に至難のわざでしょうから、議会としても。ただ問題は、議会として市民の声を聞いて歩いた

わけですよ。それをどのように位置づけるかということが1番大事だと思うのです。直接聞いたのそれだけですから。ですから、そういうものがしっかりと反映されて、まとめていくということがやはり頭になれば、ただ何やってきたのだろうかとなってしまいますよ。今の形のをただまとめるとすれば。ですから、何で市民の声を聞いて歩いたかということとは非常に私は重いと思うのですよね。その辺は、特別委員会としてはしっかりと位置づけるべきじゃないかなというふうに思います。以上です。

◎委員長（伊藤盛幸君） 櫻井委員の発言は発言として、しかし議会としては議会の市民との意見交換会で出た意見をどのように反映していくのかということの視点もこれ大事だよということだと思います。意見交換会でいただいた意見、あるいはアンケートをいたしました。その件についてまず中間報告で盛り込んで、これを十分に当局は配慮して進めるようにということで、意見をお聞きしながらそれを市当局に伝えたということで、それから公表もしておりますので、私としては、議会で開催をした意見交換会の趣旨は達成されているんじゃないかなとは思ってはいますけれども、このことについて御意見があればお伺いをしたいと思います。

近村委員。

◎近村晴男君 そのとおり、当局のほうにも中間報告でやっております。問題は、市民の方々が、では当局に話したけれども、私たちが出た声をどのように議会では受け止めているのですかということがあるのですよ。受け止め方が。市民側から。ですから、その辺について議会のほうでもある程度の、何といいますかその受け止め方の表現というかあると思うのですよね。そういうものもないと、最後まとめていくとすればですよ。報告書で出していくとすれば、やはりその辺のウエートの置き方も考えないと、何やったんだってことになってしまっはあれでしょうから、その辺危惧していたところです。

◎委員長（伊藤盛幸君） 伊藤源康委員。

◎伊藤源康君 私も櫻井委員の発言と、前から言っているとおおり12月定例会、私は9月定例会でも良かったかなと思いますが、12月定例会に、時期的に12月には議会としての意思を示すべきだという考え方は前からお話をしておりますが、ちょっとだけ確認です。今、近村委員の話も当然分かるわけですが、2月ですか、市当局が年明けてから、市民への説明会、意見交換をするということは間違いありませんね。そのあとに素案を出すということですか。そのことは委員長何か情報としてありますか。

◎委員長（伊藤盛幸君） 違います。素案を今つくって、その素案によって、2月、3月にかけて、市民説明会なり協議会のほうに説明をしていくと。

◎伊藤源康君 分かりました。私はそのあとというふうに勘違いをしたものですから、そうならば、12月に議会の意思を、どの程度の意思を示せるかどうかは別としても、示した場合、市民への説明や市民説明会ですか、それに制限をする可能性があるなというふうに思いましたので、素案をつかって、それでもって2月に市民への説明会というのであれば、話は戻りまして、やはり議会として、12月にはきちっと、どういう内容にするか別ですよ。櫻井委員言ったとおおり、議会としての意思を私は示すべきだ。問題は、仮にそうだとすると、どのような中身で、最終報告で議長へお上げし、市長へお話をするかという議論をもうすべき、むしろ遅いくらいというふうに思います。そうだとすれば、素案をつくる前に、我々議

会の意思を示すということだろうと思いますので、議会の意思を示す内容について、私は別に急いで議論をすべきだと思います。そのことについて、小委員会で諮ったらどうですか。そのために、今日まで会派でもお話ししてくださいということだったと思いますので。ちょっとこの中で、12月に出すのだと、具体的なある程度議会の意思を示す内容について、今議論はちょっと出来ないというふうに思いますよ。時間が足りないと思います。

もう一つ、これは感想でございます。大変、この場の協議とはふさわしくないかもしれませんが、どうも市長の受け答えの仕方が、非常に違和感がございます。高橋修委員も言いましたけれども、全く五つ案を示したことについてですね、対等な形で市民へ提案しないと。もうはっきり皆さん分かったと思いますけれども、タケダスポーツ用地ということ、幾つかの大変な譲歩はしたというふうに思います。それを議員がどう捉えるか、市民がどう捉えるか分かりませんが、いずれああいう受け答えについては、非常に違和感がありました。ということだけ申し上げたいと思います。

◎委員長（伊藤盛幸君） 後段の部分については、また議運なりで話題にさせていただければと思います。近村委員の御発言の中には時期的な部分がございますでしたが、おっしゃっている部分があれば、12月でもいいのではないかと、こういう御意見でしょうか。

近村委員。

◎近村晴男君 言葉足らずですいません。本当に12月でまとめるんだという方針でいくのであればですよ、そうであれば、議会としてのこれまでの歩みがありますから、それをまとめていかなきゃならないと、方針を出さなきゃならない。その時に、ウエートとしてというのは、市民から直接聞いたのは小委員会の方々が歩いて聞きましたから、それというのは重いと思うのですよね。そういうふうなものがこちらに置かれて、いや十分当局は聞いているから、それでこのような案出してきたというふうな捉え方では、市民の方々は何だったのだということになるような気がする。危惧しているのはその辺です。ですから、しっかり直接聞いたことは、しっかり伝えるべきだと。それ当局が一番重く受け止めるわけですよ。ですから、変に整理しないで、そのようなのもうまくまとめて、出すなら出すべきじゃないかという話です。でないと、何のために聞いて歩いたかという、一番大事なことだと思うのですよ。アンケートもとっています。その辺の扱い方をしっかりとしなければならぬんじゃないのかなというお話でした。ですから、12月に出すのであれば、それしっかりしなきゃならないだろうなという御意見というか、そういうつもりです。こうしろって意味じゃないです。

◎委員長（伊藤盛幸君） 小委員会の方で御発言あれば求めたいと思いますけど、私からですね、市民と議会との意見交換会の際に、4会場で冒頭にそういう、この意見交換会の目的を申し上げております。私たち議員は、市民の考えを当局に伝えをし、あるいは反映させるように努力をすべき立場ですと。この取扱いはどうなりますかという質問も当然、会場から受けましたけれども、それについても、皆様の意見についてはしっかり市のほうに伝えましますし、その結果についても公表してまいりますということで、申し上げてきております。したがって、そういったことも含めて、中間報告に盛り込んでいるわけですが、最終報告の中でも、そういった経過を含めてまとめるということは可能ですので、それは伊藤源康

委員おっしゃったとおり、小委員会の中で少し問題整理をしたいなというふうには思っております。小委員会の方、どなたかございますか。

（「なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） よろしいですか。ほかにございませんか。内館桂委員。

◎内館桂君 我が市民クラブでちょっと打合せをした中で、意見交換をしました。それをちょっと皆さんにお伝えしながら、今後の特別委員会としての最終的な結論の出し方をしていけばいいのかなという思いでございます。

それで、先ほど櫻井委員、それから伊藤委員もお話されたように、結論は早く出すべき、12月定例会までには出すべきというような発言でございました。これはそのとおりじゃないかなというふうに思います。じゃあ何を今度は最終的に報告をするかということで、これまで論点といいますか、三つほどあったんだろうというふうに思っています。まず一つは、場所の問題。これは花巻駅前、そしてまなび学園ということもございました。それから市有地にするのか。賃貸で借りるのか、民有地を借りるのかという議論。もう一つは、複合施設をどうするのか。どうするのかというのか、民間との連携のもとでやるべきものなのかどうか、そういったようなことがあったんだろうと。これまでの地域との懇談の結果については、アンケート調査も含めて報告しておりますので、まずは取組の報告がされているということで、まとめということではこの三つのことについて整理すればいいんじゃないかなというふうに思います。

先ほど3点私申し上げましたけれども、まず第1点目は、場所の関係については、立地適正化計画にある都市機能誘導区域に建設することだけでも二つの地域が今話題となっているところがクリアされるのだろうなというふうに思います。それからもう一つは、用地の関係では、やはり市有地ということが、後年度に対する市民の負担を求めていくようなことは絶対あってはならないという考えのもとでは、市有地に建設すべきではないのかという点。それから最後の三つ目は、複合施設は当然に市民の皆さんも関心のある部分だろうと、様々な声もございました。賃貸住宅は市長は考えてないということでございますので、改めて、この複合施設についても、公的なという範疇はどこまでなのか、これは分かりませんが、公的という言葉がいいかどうか分かりませんが、そうしたことに限定した、建設に向けてはどうかということをもとめられたらどうかなということで、会派ではお話をしたということで報告をさせていただきます。

◎委員長（伊藤盛幸君） はい、ありがとうございます。ほかにございませんか。社民クラブはいかがですか。若柳委員。

◎若柳良明君 やはり場所の問題が1番だと思いますが、やはり今日は、買うこともと言っていますけれども、いずれにしても、今あったように市有地に建てるという、買うのも含めてだけれども、ぜひとも市有地ということを強調してやるべきだと思います。あと、複合施設等については、ほとんど私たちが考えている方向に進んでいるのではないかと、当局の考え方がと思っていますので、その部分だけ、市有地ということだけを強調していけばいいかなと思います。よろしくどうぞお願いします。

◎委員長（伊藤盛幸君） ほかにございませんか。よろしゅうございますか。

伊藤源康委員。

◎伊藤源康君 今決めるべきなのは、12月までに最終答申と申しますか、最終報告をするかしないか。まずそれを決めないとですね、出すか出さないかも含めてですよ。最終報告まとめないのであれば、まとめないという方法もあるのかなと思いますけれども、中間があった限り最終あるべきだと私は思いますので、最低でも今日は、12月に報告していいのかどうか、それからどういう形でまとめるのかということくらいは今日決めないとですね。

◎委員長（伊藤盛幸君） 私が申し上げるべきことを伊藤源康委員がおっしゃいましたので、今、それぞれの委員さんのお考えをお聞きしながら、12月に持っていくべきかどうかという部分の判断をし、そしてまた、盛り込むべき内容につきましては、小委員会の中で少し議論をして、また皆様方の会派等にお戻しをして詰めていきたいと。12月定例会は12月15日が特別委員会の日でありますので、あと1か月でございます。その中で、小委員会としても数回開催をしながら、盛り込むべき方向を調整していきたいというふうに思うわけでありまして、本日、ただいま皆様方からの御意見によりまして、12月定例会でもって整理した部分を最終報告をして、本特別委員会の役割は12月定例会で終えると、いわゆる最終報告をしようという声が多数でありましたけれども、その方向でよろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） はい、全会一致で異議なしと認めます。次に、盛り込む内容でございます。これにつきましては、今様々ないただいた御意見を含めまして、小委員会のほうでその中身をもみまして、整理した中で、また皆様に御協議をお願いしたいと。特別委員会を開くかどうか、あるいは会派でお願いしたいということになるかもしれませんが、そういう方向でよろしゅうございますか。

近村委員。

◎近村晴男君 小委員会の皆様には大変御苦労さまでございます。もし今後まとめていくとなれば、委員の方から言葉で言われるのではなくて、資料で出して渡してもらいたいです。でないと、どのようなものか、ちょっとその委員の方の伝え方によって違ってきますので、その辺御配慮願いたいと思います。お手数ですが。

◎委員長（伊藤盛幸君） 案についてはもちろん文章で作りまして、皆様に御協議をしたいと思います。それから審査過程、協議過程については、議事録ができていれば、それも併せてお示しをしたいと思います。よろしゅうございますか。

（「異議なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） はい。それでは、最終報告に盛り込む中身については、小委員会のほうで整理をさせていただくと。その結果については、文書でもって皆様のほうに御協議をお願いしてまいりたいというふうに思います。ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） その他でございますが、何かございませんか。

（「なし」の声あり）

◎委員長（伊藤盛幸君） はい。ないようでございますので、以上で本日の特別委員会を散会といたします。どうもお疲れさまでした。

（散会 午後3時22分）